

島根県立石見美術館

研究紀要

第8号

2014

目 次

〈作品紹介〉 石見根付（島根県立石見美術館保管） 椋木 賢治 1

〈作品紹介〉 森英恵の衣裳作品 南目 美輝・廣田 理紗 17

〈作品紹介〉石見根付（島根県立石見美術館保管）

椋木 賢治

島根県立石見美術館では、平成17年の開館以来、「石見の美術」を作品収集の柱の一つに据えて諸活動を実施してきた。なかでも江戸時代に隆盛を迎え、近代以降、特に海外で高く評価された「石見根付」は重要な収集対象である。この間、收藏された作品に加え、平成24年には七田眞（1929-2009）氏の収集した石見根付を中心とするコレクション一括が、当館に寄託された。七田氏は、教育研究者として国内外で活躍するかたわら、郷土江津市の文化遺産である石見根付の研究に長年にわたり従事された*1。

これらまとまった石見根付関係資料については、これまで主に当館での展示をと紹介されてきたが、ここに作品情報及び画像を整理して公開し、石見根付の研究資料として広く活用されることを期待する*2。

作品情報は番号、名称、材質、法量、作者、制作年代、銘文、所蔵者の順に記載した。また銘文中の「/」は改行を表す。

1

亀 Turtle

水牛の角 Buffalo horn

長5.2cm 1.5.2cm

富春 Tomiharu

18世紀 18th century

浮彫銘「青陽堂富春彫」

江津市（七田眞コレクション）Gōtsu city

2

猪牙に蜘蛛 Spider on a boar tusk

猪牙 Boar tusk

長9.4cm 1.9.4cm

伝富春 Attributed to Tomiharu

19世紀 19th century

刻銘（後銘か）「石見州可愛河青陽堂富春／享年六十二歳而彫刻之／千峯寛政癸丑年也」

長円印「寿」方印「口」鼎印（参考：寛政癸丑＝寛政5年（1793））

江津市（七田眞コレクション）Gōtsu city

3

葡萄に栗鼠 Squirrel and grapevine

猪牙 Boar tusk

長7.2cm 1.7.2cm

伝富春 Attributed to Tomiharu

18～19世紀 18-19th century

刻銘（後銘か）「日本山陰道石陽可愛可青陽堂／清富春彫刻之者也／天明丁未六月十四日也」（参考：天明丁未＝天明7年（1787））

江津市（七田眞コレクション）Gōtsu city

4

猪牙に山水図

Landscape on a boar tusk

猪牙 Boar tusk

長8.8cm 1.8.8cm

作者不詳 Artist unknown

19世紀 19th century

浮彫銘「寄陽青陽堂作」

江津市（七田眞コレクション）Gōtsu city

5

猪牙に忍草と蜘蛛 Fern with spider on a
boar tusk

猪牙 Boar tusk

長8.7cm 1.8.7cm

文章 Bunshō

文政12年 (1829)

刻銘「石見州可愛河／青陽堂文章女／彫刻于
皆文政己丑／初夏也」

江津市 (七田真コレクション) Gōtsu city

6

猪牙に百足 Centipede on a boar tusk

猪牙 Boar tusk

長9.7cm 1.9.7cm

文章 Bunshō

18～19世紀 18-19th century

刻銘「石見州可愛河／青陽堂文章彫」 円印
「青易」 鼎印

江津市 (七田真コレクション) Gōtsu city

7

鮑に蟹 Crab on an abalone shell

黒檀 Ebony

幅6.1cm w.6.1cm

文章 Bunshō

18～19世紀 18-19th century

浮彫銘「石見州可愛河青陽堂文章彫刻」

江津市 (七田真コレクション) Gōtsu city

8

流木に蜘蛛

Spider on a piece of driftwood

黒柿 Black persimmon

長6.3cm 1.6.3cm

文章 Bunshō

18～19世紀 18-19th century

刻銘「文章彫」

江津市 (七田真コレクション) Gōtsu city

9

猪牙に鼠 Two rats on a boar tusk

猪牙 Boar tusk

長7.9cm 1.7.9cm

伝文章 Attributed to Bunshō

18～19世紀 18-19th century

刻銘 (後銘か)「可愛河青陽堂／文章女彫刻」

方印「青易」

江津市 (七田真コレクション) Gōtsu city

10

唐辛子 Chilli

鯨齒 Whale tooth

長6.8cm 1.6.8cm

伝文章 Attributed to Bunshō

18世紀 18th century

刻銘「青陽堂文章女彫刻」

江津市 (七田真コレクション) Gōtsu city

11

忍草に蜘蛛 Fern with spider

象牙 Ivory

幅8.4cm w.8.4cm

巖水 Gansui

19世紀 19th century

刻銘「可愛河／巖水彫刻 (花押)」 「東山に住
はえりしころはなのさかりに／御子左大納言
尋ねおはして侍りけるに／外へ出てあひたて
まつらさりし／はなのえたにつけて／ほのみ
ける宿の梢のさくら花／風よりさきに又もと
はなん／かへし／かくてこそみるへかりけれ
山桜／またれぬ宿の花のさかりは」

江津市（七田真コレクション）Gōtsu city

12

雪松に鹿

A pair of deer under pine trees with snow

猪牙 Boar tusk

長13.6cm 1.13.6cm

巖水 Gansui

19世紀 19th century

刻銘「石見州／可愛河西／青陽堂巖水／彫刻之」

江津市（七田真コレクション）Gōtsu city

13

和歌に蜘蛛 Waka poem with a spider

象牙 Ivory

幅7.0cm w.7.0cm

貫満 Kanman

文政4年（1821）

刻銘「ほのゝと／あかしの／浦の／朝きりに
／しまかく／れ／行／ふねをしそ／おもふ」
「文政四年／三月日／石陽貫満作／二十六才
造之」

江津市（七田真コレクション）Gōtsu city

14

稲穂に鼠 Rat with an ear of rice

海松 Umimatsu

長7.5cm 1.7.5cm

貫満 Kanman

19世紀 19th century

刻銘「石見国貫満刀（花押）」

江津市（七田真コレクション）Gōtsu city

15

筍切株茄子鞘豆

Bamboo stump with an eggplant and bean pods

黒柿 Black persimmon

幅4.7cm w.4.7cm

貫満 Kanman

19世紀 19th century

刻銘「石見国貫満刀（花押）」

江津市（七田真コレクション）Gōtsu city

16

和歌に南天 Waka poems with a nandin

象牙 Ivory

幅7.9cm w.7.9cm

富永 Tominaga

19世紀 19th century

刻銘（表）「人の親の心は闇にあらねとも子
をおもふ道にまよひぬるかな／色みえてうつ
ろふものは世の中のひとのこゝろの花にそあ
りける／春たつといふ斗りにやみよしのゝ山
はかすみてけさは見ゆらん」「石見国可志廼
舎／富永刻之」

刻銘（裏）「今こんといひしはかりの長月の
あり明の月を待いつる哉／夕されはさほの川
原の川風に吹まとはして千鳥なく也／遠近の
たつ木もしらぬ山中におほつがなくもよふこ
鳥かな／世の中にたへてさくらのなかりせは
春のこゝろはのとけからまし／さほ鹿の朝た
つをのゝ秋萩に玉と見るまておけるしら露／
我やとの花見かてらに来る人はちりなんのち
そ恋しかるへき」「石陽住 可志乃屋／富永
彫刻之」

江津市（七田真コレクション）Gōtsu city

17

猪牙に蜘蛛 Spider on a boar tusk

猪牙 Boar tusk

長8.0cm 1.8.0cm

富明 Tomiaki

18世紀 18th century

刻銘「回春堂富明彫刻之」

江津市（七田真コレクション）Gōtsu city

18

猪牙に忍草と蜘蛛 Fern with two spiders
on a boar tusk

猪牙 Boar tusk

長11.3cm 1.11.3cm

素龍 Soryū

19世紀 19th century

刻銘「このたひはぬさもとりあへす手向山も
みちのにしき神のまに、／いにしへのならの
都の八重さくらけふ九重にほひぬるかな／
いたつらにすくる月日はおほけれと花みてく
らすはるそすくなき」「素龍刻」

江津市（七田真コレクション）Gōtsu city

19

猪牙に蟹 Crab on a boar tusk

猪牙 Boar tusk

長10.7cm 1.10.7cm

我補 Gaho

文化13年（1816）

刻銘「長門赤間関住／青牛軒我補／文化十三
丙子立夏上旬彫刻之」方印「青」

江津市（七田真コレクション）Gōtsu city

20

猪牙に忍草と蜘蛛 Fern with spider on a
boar tusk

猪牙 Boar tusk

長9.4cm 1.9.4cm

廣花堂 Kōkado

19世紀 19th century

刻銘「廣花堂」

江津市（七田真コレクション）Gōtsu city

21

猪牙に忍草と蟹 Fern with crab on a boar
tusk

猪牙 Boar tusk

長9.1cm 1.9.1cm

作者不詳 Artist unknown

19世紀 19th century

江津市（七田真コレクション）Gōtsu city

22

堅田落雁 *Katatarakugan* landscape

猪牙 Boar tusk

長10.5cm 1.10.5cm

作者不詳 Artist unknown

19世紀 19th century

江津市（七田真コレクション）Gōtsu city

23

蟬 Cicada

水牛の角 Buffalo horn

長8.0cm 1.8.0cm

直人 Naohito

18世紀 18th century

浮彫銘「雲陽住／直人作」

江津市（七田真コレクション）Gōtsu city

24

枝に蟬 Cicada on a branch

黒檀 Ebony

長8.2cm 1.8.2cm

作者不詳 Artist unknown

18～19世紀 18-19th century

浮彫銘（判読不能）
江津市（七田真コレクション） Gōtsu city

25
亀 Turtle
黒檀 Ebony
長4.6cm 1.4.6cm
可専 Kasen
18～19世紀 18-19th century
刻銘「可専」
江津市（七田真コレクション） Gōtsu city

26
竹に蝸牛 Snail on a bamboo
黄楊 Boxwood
長3.9cm 1.3.9cm
利治 Toshiharu
19世紀 19th century
刻銘「牧牛軒」
江津市（七田真コレクション） Gōtsu city

27
流木に蟹 Crab on a piece of driftwood
黒柿 Black persimmon
幅6.9cm w.6.9cm
作者不詳 Artist unknown
18世紀 18th century
浮彫銘「吉（花押）」
江津市（七田真コレクション） Gōtsu city

28
蓮葉に蛙 Frog on a lotus leaf
黄楊 Boxwood
長6.7cm 1.6.7cm
白龍 Hakuryū
19世紀 19th century

浮彫銘「松白龍作」
江津市（七田真コレクション） Gōtsu city

29
蓮葉に蛙 Frog on a lotus leaf
黄楊 Boxwood
長6.2cm 1.6.2cm
作者不詳 Artist unknown
19世紀 19th century
浮彫銘（判読不能）
江津市（七田真コレクション） Gōtsu city

30
蛙 Frog
黄楊 Boxwood
長6.6cm 1.6.6cm
葛刈 Kuzukari
19世紀 19th century
浮彫銘「綿丘道人葛刈彫刻之」
江津市（七田真コレクション） Gōtsu city

31
八景図 *Hakkei* landscape
象牙 Ivory
幅7.0cm w.7.0cm
正吉 Masayoshi
文化5年（1808）
刻銘「八景之圖／文化五年／辰五月吉日／伯
州米子住／因州鳥取ニ而／作之／正吉（花押）」
江津市（七田真コレクション） Gōtsu city

32
トンコツ（煙草入れ） *Tonkotsu* tobacco
case
竹 Bamboo
高6.3cm 幅7.2cm h.6.3cm w.7.2cm

巖水 Gansui

19世紀 19th century

蓋裏刻銘「巖水」

江津市（七田真コレクション）Gōtsu city

33

香入提物 Incense case

黒檀 Ebony

径5.8cm d.5.8cm

臥農 Ganō

18～19世紀 18-19th century

陽刻「得月亭／臥農作」

江津市（七田真コレクション）Gōtsu city

34

蓮葉に蓑亀 *Minogame on a lotus leaf*

鯨齒 Whale tooth

長4.9cm 1.4.9cm

富春 Tomiharu

寛政4年（1792）

刻銘「石見州可愛河青陽堂／富春六十歳而彫刻／于時寛政壬子年也」

島根県立石見美術館 Iwami Art Museum

35

鮑に蟹 Crab on an abalone shell

象牙 Ivory

長4.9cm 1.4.9cm

富春 Tomiharu

寛政7年（1795）

刻銘「石見州可愛河青陽堂富春享年六十三歳而彫刻之于岾寛政乙卯之冬也」方印「□」鼎印

島根県立石見美術館 Iwami Art Museum

36

亀 Turtle

黒檀 Ebony

長6.1cm 1.6.1cm

富春 Tomiharu

18～19世紀 18-19th century

刻銘「石見州可愛／河邊青陽／堂富春」

島根県立石見美術館 Iwami Art Museum

37

扇面に忍草 Fern on a fan

象牙 Ivory

幅9.9cm w.9.9cm

巖水 Gansui

19世紀 19th century

刻銘「見ちのくの／しのふもし／つりたれゆへに／みたれそめ／にし／我なら／なくに」
「石見国可愛河／青陽堂／巖水／彫刻」

島根県立石見美術館 Iwami Art Museum

38

猪牙に蜘蛛 Spider on a boar tusk

猪牙 Boar tusk

長8.5cm 1.8.5cm

富永 Tominaga

19世紀 19th century

刻銘「ほのゝと明石のうらの朝霧に嶋かくれゆく船をしそおもふ／和歌の浦にしほみちくれはかた（を）なみあしへをさしてたつなきわたる／夜やさむき衣やうすきかたそきのゆきあひのまより霜やおくらん」「可志乃舎／富永彫之（花押）」

島根県立石見美術館 Iwami Art Museum

39

牛 Recumbent ox

黒檀 Ebony
長5.6cm 1.5.6cm
龍水 Ryūsui
18～19世紀 18-19th century
刻銘「龍水」
島根県立石見美術館 Iwami Art Museum

鑑定評価を行った吉田ゆかり氏の見解を参照し、多くを教えられた。記して感謝申し上げたい。ただし本稿に不備や誤謬があるとすれば、その責は全面的に筆者が負うものである。
(当館学芸課長)

40
猪牙に蜘蛛 Spider on a boar tusk
猪牙 Boar tusk
長8.3cm 1.8.3cm
作者不詳 Artist unknown
18～19世紀 18-19th century
島根県立石見美術館 Iwami Art Museum

41
猛禽図印籠 Two-case *inrō* with a hawk
高蒔絵 Lacquer
高6.9cm 幅6.9cm h.6.9cm w.6.9cm
中村松間齋 Nakamura Shōkansai
19世紀 19th century
銘「松間齋」壺印「信」
島根県立石見美術館 Iwami Art Museum

註

1 七田真氏の石見根付に関する主な著書は次のとおり。

『石見の左甚五郎 清水巖とその一門』1970年

『石見の左甚五郎 根付彫刻師 清水巖』1984年

『石見派の根付彫刻家たち－清水富春とその一門－』2003年

2 本稿では当館寄託の七田真コレクション全163点のうち「石見根付」研究に資すると考えられる33作品を選定して紹介する。また作品情報の整理にあたっては、作品寄託時に



1



4



2



5



3



6



7



10



8



11



9



12



13



16-1



14



16-2



15



17



18



21



19



22



20



23



24



27



25



28



26



29



30



33



31



34



32



35



36



39



37



40



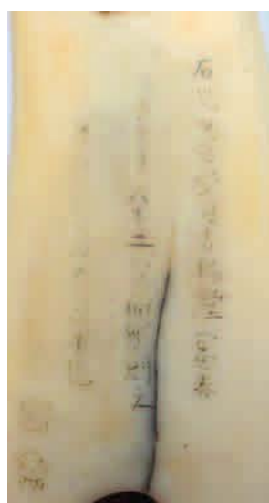
38



41



1



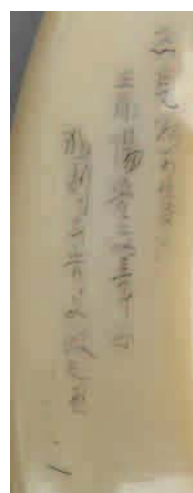
2



3



4



5



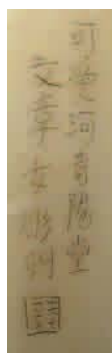
6



7



8



9



10



12



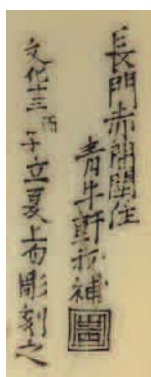
14



15



17



19



20



23



25



26



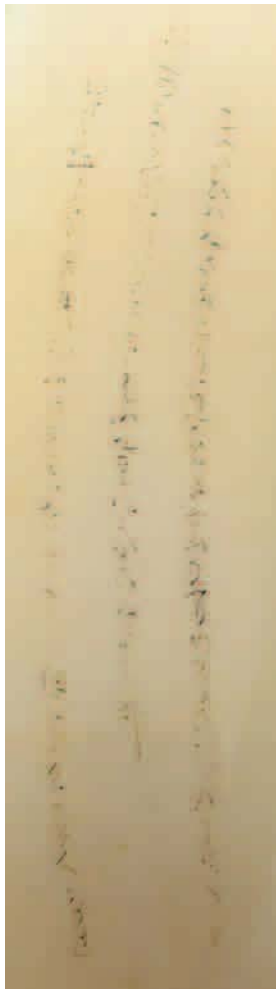
27



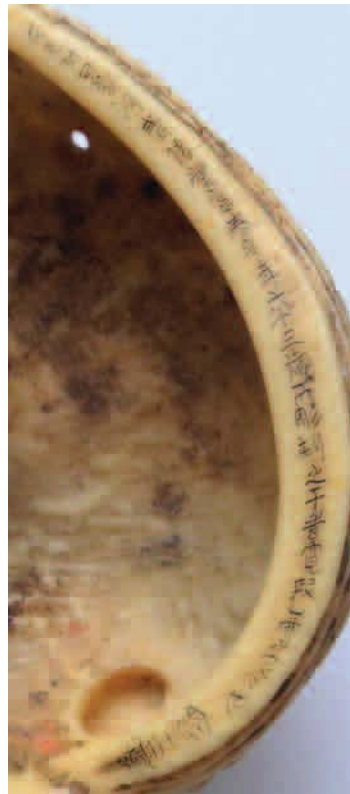
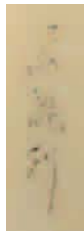
28



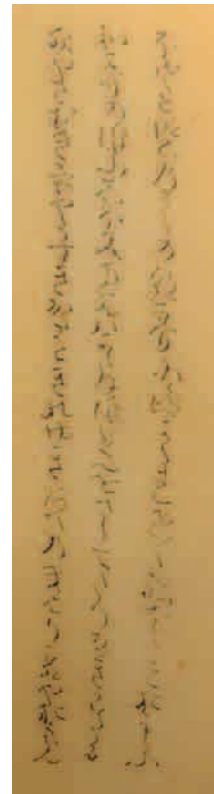
30



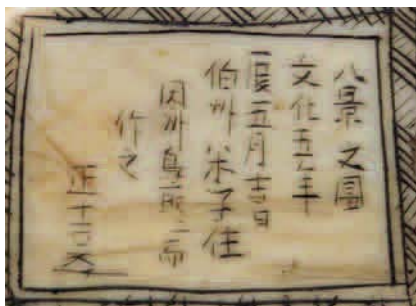
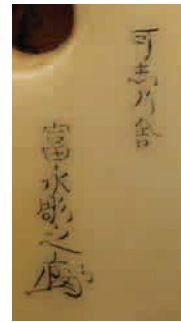
18



35



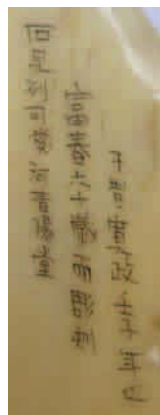
38



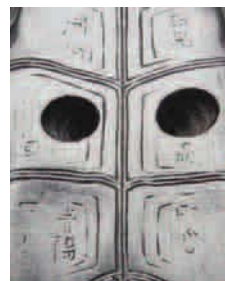
31



32



34



36



39



41

〈作品紹介〉 森英恵の衣裳作品

南目 美輝・廣田 理紗

森英恵は、日本人デザイナーのパイオニアとして国際的に認知されたファッションデザイナーである。1950年代には日本映画の衣裳制作に取り組み、その成果を礎に1964年にアメリカ、1975年にはフランスへと活躍の場を広げ、1977年東洋人として初めてパリ・オートクチュール組合へ加入が認められた。以降オートクチュールコレクションを年2回、ブレタポルテコレクションを年2回、パリ、ニューヨーク、東京などで開催（オートクチュールコレクションは2004-2005秋冬まで）。精力的なその活躍は、後進デザイナーが海外へ進出する際の道筋をつけたといえる。

当館は作品収集における重点領域の一つとして「ファッション」を掲げている。当県出身である森については、「ファッション」の領域の中心作家として位置づけ、その作品を21点収集してきた。平成17年の開館前後に購入および寄贈を受けた作品11点に加え、平成24年度には、作家本人より10点の寄贈を受けている。

本稿は、当館所蔵の森の全作品について、聞き取り等により新たに判明した事実を加え、作品に関する情報、および図版を整理し報告するものである。

なお1、2、4-9、11-12、21については南目が、3、10、13-20については廣田が、それぞれ執筆した。

1

作品名 イブニングコート、ショートドレス
制作年 1964 春夏

技法・材質 純金帯地（西陣織）を用いたイブニングコート、ショートドレスのスカート。ショートドレスのトップは絹サテンと帯地。アンダーウェア付。

備考 森英恵は、日本国内で映画衣裳のデザインを皮切りにキャリアを積み上げ、1964年まずはアメリカで作品を発表した。本作は同年、ラスベガスで開催された「国際ファッション・フェスティバル」に参加した際に発表したもの。モデルの入江美樹が着用した写真が残っている。金糸を縫い込んだ西陣手織の丸帯を大胆に用いたもので、森が国外で作品を発表し始めた初期の貴重な作例。洋服のスタイルを堅守しつつ、帯地という日本の伝統的な手仕事を巧みに取り入れている。

展覧会歴*1 B, E, G, H

2

作品名 ジャンプスーツ、カフタン

制作年 1966

技法・材質 菊をプリントした綾絹と絹シフォンによるカフタン。同柄の綾絹のジャンプスーツ。ピンク色の絹サテンのベルト付。

備考 1965年、森はニューヨークのホテル・デルモニコで初の海外コレクションを発表した。このショーで、ダラスの高級百貨店ニーマン・マーカスのオーナー、スタンレー・マーカス氏に見いだされ、ニューヨークの百貨店を中心に、アメリカ国内で森のドレスが販売されるようになる。当時アメリカでは、自宅に客を招いた際に女主人が着用する華やかなホステスガウンの需要があった。それに応え

るものとして、本作のような華やかで気品ある森のドレスは人気を博した。本作はまた、リチャード・アヴェドンにより撮影され『アメリカン・ヴォーグ』（1966年11月号）に見開きで掲載された。森の代表作の一つ。

展覧会歴 B, G, H, I

3

作品名 イブニングコート、ドレス

制作年 1968

技法・材質 帯地風に仕立てた西陣織のイブニングコート。赤と白の絹サテンのロングドレス。赤い絹サテンのベルト付。

備考 コートにはブランド名をひらがなで「はなえもり」と手書き風の字体で表し、「Made in Japan」と並記したラベルが付いている。アメリカに進出しビジネスが順調に拡大していた時期の作例で、生地から仕立てまで一貫して日本製にこだわった一点。舞踊家マーサ・グラハム女史が愛用していたドレスでもある。

展覧会歴 B

4

作品名 カフタン、ドレス「蝶のカフタン」

制作年 1976 春夏

技法・材質 蝶をプリントした絹シフォンを綾絹と重ねたカフタンとドレス。同柄の絹シフォンのストール付。

備考 蝶を大胆にプリントした絹シフォンと綾絹を重ねたドレス。森はアメリカ進出当初は帯地や紬等を使用していたが、次第に東洋的な図案のプリント地を用いるようになる。色を重視するデザイン戦略が功を奏し、アメリカでのビジネスは成功、70年代のパリ進出の布石ともなった。

展覧会歴 B

5

作品名 カフタン、ドレス「蝶のカフタン」

制作年 1976 春夏

技法・材質 蝶をプリントした絹シフォンと綾絹。ネックにビーズ刺繍。

備考 5と同年に発表されたドレス。蝶の図柄を活かしたデザインはアメリカ時代に考案されたもので、HANAЕ MORIブランドを象徴するモチーフとなった。

1986年、ポンピドゥーセンターで開催された「前衛芸術の日本 1910-1970」展では、本作を含む4点が出品された。大正期以降70年までの日本の美術の動向を振り返る同展は、現代美術の展開に焦点をあてたもの。「建築と応用芸術」というセクション（建築、工芸、グラフィックデザイン、プロダクトデザインをとりあげている）において、森の作例も紹介されている。同展には、ファッションデザイナーとしては森がただ一人参加した。

展覧会歴 A, B, G, H

6

作品名 イブニング・ドレス「花の白いドレス」

制作年 1981 春夏

技法・材質 白い絹クレープのドレス。絹サテンのアップリケとビーズ刺繍。

展覧会歴 B, C, E, G, H, I

7

作品名 イブニング・ドレス「花の黒いドレス」

制作年 1981 春夏

技法・材質 黒い絹クレープのドレス。絹サ

テンとビーズのアップリケ。

備考 伸縮性のある絹クレープに、色鮮やかな大輪の花を大胆にあしらった、白（7）と黒（8）のドレス。花はグラデーションのサテン地を用いて立体感を表現するよう仕上げられている。

展覧会歴 B, C, E, G, H, I

8

作品名 イブニング・ドレス「赤い蝶のドレス」

制作年 1990 春夏

技法・材質 赤い絹クレープのドレス。蝶のモチーフにビーズ刺繍。

備考 蝶を大胆に身頃に配し、真紅のクレープ地のロングドレスと組み合わせた簡潔な構成の作例。アメリカ進出後「ラッカーレッド」と評された日本の伝統色を想起させる真紅が印象深い。

展覧会歴 E, G, H

9

作品名 イブニング・ドレス「蒔絵を思わせる赤いサテンのイブニング・ドレス」

制作年 1994 秋冬

技法・材質 刺繍とプリントで秋草をあしらった赤い絹サテンと絹シフォンのロングドレス。腰にリボン飾り。ホルターネック。ドレスと一体となったストール付き。

備考 秋草を金でプリントし、蒔絵風に仕上げることで日本の伝統的な芸術作品を強くイメージ出来るよう工夫された本作。黒い絹サテンに同柄をプリントした色違いのテキスタイルを用いたドレスも、本作と同時に発表された。

展覧会歴 D

10

作品名 イブニング・ドレス「蝶を染めたベルベットのドレス」

制作年 1996 秋冬

技法・材質 ピンク色の絹ベルベットのドレス。

備考 トレードマークの蝶を大胆にあしらったシンプルで優美なドレス。森は上質なイブニング・ドレスを得意としている。

展覧会歴 なし

11

作品名 イブニング・ドレス「北斎の版画のように、山の風景を染めた絹のドレス」

制作年 1996 春夏

技法・材質 浮世絵の柄をプリントした絹シフォン、絹サテンのドレス。

備考 日本を代表するイメージとして、欧米でも認知されている北斎の浮世絵をモチーフとしたドレス。ここでも、絹シフォンと絹サテンに同じ柄をプリントして重ね、立体感を強調する手法を用いている。

展覧会歴 E, H

12

作品名 イブニング・ドレス「りんごの花のドレス」

制作年 1998 春夏

技法・材質 りんごの花をプリントしたシフォンのロングドレス。マーメイドライン。オーバル型スパンクルを用いた刺繍をあしらった。肩と襟もとに鳥の羽根を用いた飾り。

備考 マーメイドラインで、透明なスパンクルを敷き詰めるように刺繍されている。軽さを保ち、身体に沿うラインの引き締まった印象を強め、スカートの広がりとしフォンの持つ軽やかさを際立たせている。本作と同時に、

同じ柄で色違い（空色）のシルクシフォンを用いたドレスも発表されている。

展覧会歴 E

13

作品名 イブニング・ドレス「コーラル色の花を縫いとったレースのドレス」

制作年 1998 秋冬

技法・材質 黒色のチュールレース地に珊瑚色の花の刺繍を施した、ワンショルダーのロングドレス。右袖は肘元までのスリット入り。スカート部は濃度の異なる3枚のピンク色絹シフォンに、黒色のスパングルが縫い止められた格子状の生地を重ねた四層構造。

備考 身体のラインに沿うように計算された華奢なボディスト、しなやかに揺れるスカートが美しい。スカートにあしらわれたスパングルは光を反射し、ランウェイを華やかに彩った。オートクチュールならではの細かな手仕事が光る。

展覧会歴 なし

14

作品名 カクテル・スーツ「プリーツをあしらったウールのスーツ」

制作年 2001 春夏

技法・材質 白いウールジョーゼットのジャケット、背中にプリーツをいかした菱形の装飾。ラインストーン付きの飾りピン。白いウールジョーゼットのアコーディオンプリーツのスカート。

備考 ジャケットの背中にあしらわれたプリーツが印象的な白いウールのスーツ。森は、1977年にパリ、オートクチュールに活躍の場を移した後、他のクチュリエに比べ自身の作品は装飾が少ないことに気付いたと自伝で語

る。そうした自身のスタイルについて森は「芯を残して、無駄を削ぎ落としていく」とコメントしており、本作もそうした「引き算」でデザインされた一点。本作同様黒や白、ベージュといった単色で美しい形を見せるスーツがこのコレクションでも多数発表された。

展覧会歴 なし

15

作品名 「浮世絵のジャケットとリボンで編んだスカート」

制作年 2001 秋冬

技法・材質 ベージュ色の絹シフォンに浮世絵をプリントし、人物柄をビーズ刺繍したジャケット、裾は切りっぱなし。緑と茶、2色のベルベトリボンとピンク色の絹タフタリボンを格子に編んだフレアスカート。

備考 オートクチュールの刺繍職人の技術が遺憾なく発揮され、見所となっているジャケット。人物に施された総ビーズの縫い取りもさることながら、人物以外の部分もビーズとスパングルを縫い込んだ刺繍が施され、布地の表面に表情が与えられている。本作が発表された。コレクションでは、同じ浮世絵柄の色違い（青色）のシルクシフォンを用いたドレスも発表された。スカートには硬質のチュールが3重に組み込まれ、立体的な形を支えている。

展覧会歴 なし

16

作品名 「黒い羽根を縫いとったロイヤルブルーのスーツ」

制作年 2002 秋冬

技法・材質 バラがプリントされた青色絹サテンのジャケットと膝丈のスカート。襟元、

袖さき、背に黒い羽根の縫い取り刺繍、ラメ飾り。

備考 深く鮮やかな青色が印象的な本作。黒いバラの花と、所々に施された黒い羽根飾りが、上品な華やかさを与えている。羽根飾りは森が得意とするもので、度々登場する装飾である。本作が発表されたコレクションでは、モノトーンのスーツに青色の手袋やコサージュ、ベルトなどをあわせたものなど、青色とモノトーンが鮮やかな対比を見せるものが散見された。

展覧会歴 なし

17

作品名 カクテル・ドレス「レースのドレスに軽いボレロ」

制作年 2004 春夏

技法・材質 黒色絹サテンとリバーレースでできたショートドレス。胸元には小花のラメ飾りと、ビーズとスパングルを用いた刺繍。黒色のホースヘアーとリボン状のモチーフを組み合わせたボレロ。

備考 繊細な肩紐とショート丈のドレス、透け感の強いボレロが軽やかな印象を与える作品。ドレスは繊細な肩紐が背で交差して、肌の上に幾何学的な模様を浮かび上がらせる。胸元にあしらわれた小花柄のラメ飾りが、シックな中に可愛らしい雰囲気を与えている。

展覧会歴 なし

18

作品名 カクテル・ドレス「銀色のアンサンブル」

制作年 2004 春夏

技法・材質 銀色バラ柄のレースでできたボレロ。黒と銀のラメジャージーでできたショー

トドレス。裾と胸元にはボレロと同じレース飾り、肩にはダイヤモンドがあしらわれた錫のチェーンストラップ。

備考 銀色のレースが光を受け、きらびやかに輝くボレロ。本作が発表されたコレクションでは、同一のレースを用いたジャケットも発表されている。ドレスに用いられたジャージーには透け感があるため、全体が軽やかでセクシーな印象に仕上げられている。

展覧会歴 なし

19

作品名 イブニング・ドレス「墨絵にオレンジ色の花を添えたシフォンのドレス」

制作年 2004 春夏

技法・材質 三種の絹シフォンを組み合わせたロングドレス。バラのコサージュ付き。モザイク状にモチーフを貼り付けたベルト飾り。ホルターネック。ロングストール。

備考 絹シフォンは墨絵プリント地、波模様にはオレンジ色のバラのプリント地、黒無地の三種。左腰と左裾にオーガンジーとサテンを組み合わせたオレンジ色のコサージュがついている。グラフィカルな墨文字、日本画に描かれるような波模様をプリント地に採用し、東洋の要素を取り入れている。幅広の絹シフォンを長く贅沢に用い、優雅な雰囲気演出する手法は、初期の作例にも見られるものである。

展覧会歴 F, H

20

作品名 イブニング・ドレス「蝶とタイガーと波をそめた白い絹のドレス」

制作年 2004 春夏

技法・材質 蝶と虎と波をプリントした絹シ

フォンのロングドレス。同布のストール付き。裾と袖口に同布で刺繍、蝶と虎にはラメ飾り。

備考 蝶、虎、そして波という東洋的なモチーフをあしらったドレス。森は国外に活動の場を拡げて以降、「日本」や「東洋」の要素と洋服の融合を一貫して試みているが、本作もそうした作例に連なるもの。装飾的でドラマティックな要素も盛り込まれ見る者に強い印象を与える。

展覧会歴 なし

参考作品

作品名 デイ・ドレス

制作年 1966年?

技法・材質 絹シフォンと絹サテンに幾何学的な図案をプリントしたドレス。

備考 本作品は、アメリカで活動していた時期の作例。上品にまとめられたサイケデリックな図柄が印象深い。元はタイトなロングドレスであったが、後の手により大きく変更されている。1966年の中村誠による資生堂海外向け企業広告ポスターでは、モデルが着用しているドレスに本作と同柄、色違いのテキスタイルが用いられている。

展覧会歴 なし

主な参考文献

- ・森英恵 『あしたのデザイン』 1979年、朝日新聞社
- ・森英恵 『ガラスの蝶』 1984年、文化出版局
- ・『HANAЕ MORI 1960-1989』 1989年、朝日新聞社
- ・森英恵 『ファッション - 蝶は国境をこえる』 岩波新書、1993年、岩波書店
- ・『HANAЕ MORI STYLE』 2001年、講談社インターナショナル

- ・森英恵 『グッドバイ バタフライ』 2010年、文藝春秋
- ・『森英恵 その仕事、その生き方 (別冊太陽)』 2011年、平凡社

註

- 1 展覧会歴は以下に対応している。
 - A 「前衛芸術の日本 1910-1970」 1986年12月9日～1987年3月2日
於：パリ、ポンピドゥーセンター
 - B 「森英恵展」 1989年7月1日～7月16日
於：ハナエ・モリビル5階
 - C 衣裳文化展「森英恵とパリ・オートクチュール」 1992年10月21日～12月6日
於：神戸市立博物館
 - D 「森英恵とパリ - パリ・オートクチュール20年 -」 1998年4月22日～5月5日
於：松屋銀座
 - E 「森英恵展 東と西の出会い」 2000年4月8日～6月4日
於：水戸芸術館
 - F 「森英恵 手で創る」 2006年3月15日～4月11日
於：新国立劇場
 - G “HANAЕ MORI RÉTROSPECTIVE” 森英恵展 2006年10月6日～10月27日
於：パリ、MAISON de L'AMERIQUE LATINE
 - H 「森英恵 手で創る 東京-パリ-島根」 2007年4月20日～6月11日
於：島根県立石見美術館
 - I 「花とともに - 日本美術の500年/室町から現代まで -」 2010年4月23日～5月31日
於：島根県立石見美術館 (いずれも当館主任学芸員)



1-1
コート着用時



3



1-2
ショート・ドレスのみ



4



2



5



6



9



7



10



8



11



12-1



14-1



12-2
背面



14-2
背面



13



15



16



19



17



20



18



参考作品

島根県立石見美術館
研究紀要 第8号

発行日－平成26年3月28日

編集発行－島根県立石見美術館

〒698-0022 益田市有明町5-15

TEL 0856-23-2050 FAX 0856-31-1878

印刷－株式会社タイピック